

2024年度
事業計画書

自 2024年 4月 1日
至 2025年 3月31日

2024年 4月19日

一般社団法人日本ロボットシステムインテグレータ協会

2024年度 事業計画

I. 事業方針

1. 本年度は、重点項目として次の事業活動を展開する。
 - (1) SIer を中心としたF A・ロボット業界ネットワークの構築
 - (2) SIer 事業基盤の強化
 - (3) システムインテグレーションに対する専門性の高度化、人材育成
 - (4) 次世代を担う人材に対する SIer の認知度向上
 - (5) 各地域との連携の構築
 - (6) デジタルを用いたロボット SI 教育システムの構築
2. 本年度の重点項目に関する活動は、広報分科会、経営企画分科会、地域連携分科会、技術分科会、人材育成分科会、統計委員会、ロボットセンター委員会等の各分科会・委員会が連携して推進する。また、各地域での事業活動展開に向け、地域機関および関係業界団体との連携を強化する。

II. 各分科会の活動

1. 広報分科会

(1) 展示会への出展

ROBOT TECHNOLOGY JAPAN、Japan Robot Week、ロボデックス、未来モノづくり国際 EXPO をはじめ複数の展示会に協会ブースを出展する。

(2) 認知度向上活動の実施

ロボットシステムインテグレータという職種の認知度向上のために、動画の作成など認知度向上ツールの作成と公開を行う。

(3) ロボットアイデア甲子園の開催

高校生を中心とした若者を対象とした、「産業用ロボット見学会」と「産業用ロボット活用アイデアコンテスト」を統合した「ロボットアイデア甲子園」を開催する。決勝戦は機械振興会館にて行なう。

(4) 学生向け展示会（R I X）の開催

第2回学生向けの産業用ロボット展示会の開催に向け、開催場所、開催時期、開催方法に関し検討を行う。

(5) 会報誌 JARSIA の発行

SIer 協会の会報誌 JARSIA を発行する。

(6) 一般広報ツールの作成

協会の紹介動画やステッカー、フラッグ、ユニフォームなど協会の広報ツールを作成する。

2. 経営企画分科会

(1) 会員企業の経営基盤強化に向けた施策検討

昨年度に作成した「ロボット S I 業務プロセスガイドライン」にひな形や解説を追加する。また、前さばき部分の追加も検討する。会員に向けた普及活動も開始する。

経済産業省事業で昨年作成したロボット導入事前チェックリストとロボット導入支援の手引きの普及啓発活動を行う。

(2) 会員間や SI 関連企業と会員間の協業体制の構築

SI 関連企業と会員間の協業体制の構築を目的として、ロボットシステムの周辺機器や設備メーカーがロボットシステムインテグレータへ商品情報を提供する場である「ロボット F A 関連商品説明会（旧新商品サービス説明会）」を開催する。また、協会会員が展示会に共同出展する等の会員の企業情報のアウトプットの方法を検討する。

(3) 国際調査・交流の実施

台湾のロボット展示会 TAIROS 視察を計画・実施する。

(4) SIer の採用力強化のための活動

前田氏による「採用力向上セミナー」を本年も引き続き実施する。テーマは離職防止の予定。

3. 地域連携分科会

(1) 地域連携強化に向けた検討

各地域における SIer 企業間の連携や地域行政との連携の強化を目指し、その方策を検討する。分科会では各地域の状況を共有し、連携強化のための手掛かりを探る。

(2) SIer's Day の開催

ロボットシステムインテグレータ間のコミュニケーションの強化とロボット導入を目指すユーザーへの情報提供を目的に、全国すべてのブロックで SIer's Day を開催する。

(3) 地方行政との連携

経済産業省が推進する「ロボット導入先進地域ネットワーク」の活動に協力し、各地域の行政との連携を強める。また、各地域のロボット導入推進を図る公的団体と意見交換を行う地域政策研究会を開催する。

4. 技術分科会

(1) スキル標準の見直しとスキル読本の作成

JARSIA スキル標準の見直しと精緻化を行う。また、JARSIA スキル標準にあわせて経済産業省作成の「ロボットシステムインテグレータのスキル読本」を改訂し SIer 協会版のスキル読本を作成する。

(2) 技術セミナーの開催

会員を対象とした技術セミナーを開催する。AI・IoT といった最新技術に関しても積極的にテーマに取り入れる。

(3) 協会標準規格の検討

協調領域における協会標準規格商品（アイテム）の創出に関しての可能性を検討する。本年度はコントロールパネル（操作盤）の標準化可能性を中心に検討を行う。

5. 人材育成分科会

(1) 教育手法の検討

若年層や企業のエンジニアに対する教育手法や新たな講座に関して検討を行なう。

(2) 講座の開催

「ロボット S I 基礎講座」を積極的に開催する。「導入企業向け講座」「大学生向け講座」も昨年に引き続き実施する。自動化推進協会より引き継いだ自動化技術講座、ロボットセーフティーアセッサ資格取得のためのセーフティーアセッサ講座からなるステップアップ講座を実施する。修了者認定に新たにオープンバッジによる認定を導入する。

(3) 講師の養成

基礎講座他の講師の選任、講師間の情報交流を行なう。

6. 統計委員会

(1) SIer 統計の回収と集計

SIer 統計の回収と集計を行う。SIer 統計システムの改善を行い、ユーザービリティの向上を図る。また、提出率を高めるための方策を検討する。集計システムの改善を行う。

(2) 定点観測アンケートの実施

年度末に定点観測アンケートを実施し、その結果を総会にて報告する。

Ⅲ. 分科会に属さない独立した活動（運営委員会直轄事業）

(1) ロボット S I 検定

ロボット S I 検定 3 級試験を年 2 回、ロボット S I 検定 2 級試験を年 1 回実施する。

(2) 外部団体との連携

C H E R S I やロボット学会など外部団体との連携を行なう。

(3) デジタルを用いたロボット S I 教育システムの構築

高校生向けの検定試験として S I 検定 4 級 (ロボット S I パスポート試験) の実施を検討する。テキストの作成、実施体制を整え、本年度中のトライアル実施を目指す。実機その他、デジタルを用いた教育機器でも受験可能とする。

(4) 調査事業

タイへの S I 検定 3 級輸出事業を A O T S の補助金を活用して昨年引き続き実施する。S I 検定 2 級に対応したロボットシステム設計講座を N E D O の補助金を活用して昨年引き続き実施する。その他、人材育成事業を中心に国や地方公共団体の事業を受託し実施する。

(5) ロボットメーカとの交流会

ロボットメーカとの交流を兼ねたセミナー等イベントを企画・実施する。

IV. その他、本協会の目的を達成するために必要な活動

産学官金との連携を強化し、中長期的な視点から、ロボット・F A 産業の持続的な発展と S I 業界の地位向上に資する活動に取り組む。